


 NEWS RELEASE

富士通 / トランストロン クラウド型運行支援サービス 「ITP-WebService V2」をレベルアップ 「運行コンシェルジュ」を発表

富士通グループの株式会社トランストロンは、クラウド型運行支援サービス「ITP-WebService V2」の機能レベルアップを図り、7月25日、提供を開始した。

トランストロンは2010年にネットワーク型デジタコ「DTS-C1シリーズ」と「ITP-WebService」を発売。翌2011年にはドラレコ搭載モデルもラインナップに加えた。そして昨年8月に新モデル「DTS-D1シリーズ」と「ITP-WebService V2」を販売開始して1年が経過した。DTS-D1シリーズにもドラレコ搭載モデルをラインナップし、多くの顧客からの支持を受け、ネットワーク型デジタコは現在約8万台の販売実績を持つ、その好調な背景には、①カードレス運用の実現、②動態把握、③ドラレコ動画(HD画質)送信、④自動レベルアップ(機能追加、地図更新など)、⑤ビッグデータの活

用(急ブレーキ多発マップ、エコアンドセイフティ全国運転ランキング)、⑥外部機器連携(眠気検知、モバイルアルコールチェッカー、タイヤ空気圧)、⑦導入の手軽さ(高価なパッケージソフトの購入が不要)など、その評価は枚挙に暇がない。また、システム運用の軽減等も顧客から支持された要因となっている。その他、通信・クラウドセンターを富士通グループ製で一貫して運用することで安価なサービス価格を実現し、また高い品質レベルの維持に繋がっている。さらにサポート窓口の一本化を図り、365日対応を実施している点も顧客満足を得ている要因と受け止めている。では、今回リリースされたクラウド型運行支援サービス「ITP-WebService V2」に追加された「運行コンシェルジュ」。その特徴と機能の内容について紹介する。

運行情報をクラウド活用した 新しい使い方を提案

クラウド型運行支援サービス「ITP-WebService V2」は、最新のIT技術を駆使した富士通のクラウドを基盤に、高速ネットワーク、高機能のドライブレコーダーに対応したDTS-D1シリーズをサポートするソフトウェア・サービスにある。

また、このネットワーク型デジタコ「DTS-D1シリーズ」からリアルタイムに運行データを送信して高度な運行支援を行い、そのメリットを活かした「クラウド」を活用することで取得した様々なデータの安全性を確保し、利便性を備えて効果的

に活用できるという新しい使い方を提案したものだ。

今回、注目するポイントは、「ITP-WebService V2」の機能強化を図ったことで、収集されるそれぞれのデータを単一でなく複合的に分析し、安全運行に必要な新たな改善ポイントを利用者に提供する「運行コンシェルジュ」を、使い勝手等の細かいレベルに至るまで実施したことである。

新たな運行管理体制の確立へ 「運行コンシェルジュ」を登用

「運行コンシェルジュ」は、デジタコの運行実績を基に、運行評価を

自動的に行い、実績の分析結果を運転者へ提示する。

また、特に運行評価を悪化させる要因となっていた運行部分について、ドラレコの動画を自動で取得した視覚(動画)をとおして注意を促す。

さらに評価に加え、今後の運行における改善点を分かりやすく詳細に提示するものだ。

これらを実現するための判断要因として、車両の速度、急加減速、エンジン回転、ジャイロ、G、車間距離、車線逸脱、長時間運転などを組み合わせることにより、「安全」「経済」「輸送品質」3つの指標を基に運転者に運行のアドバイスを



改善ポイントを提示することを可能にした。

具体例を上げると、①「速度オーバー」「急加減速」「車線逸脱」、この三つを組み合わせると、「高速走行からの急減速しての車線変更は非常に危険で事故の原因となります」と喚起する。具体例②「急ブレーキ」「長時間運転」「余裕の無い車間距離」を組み合わせると、「運転に疲れてくると判断が鈍くなります。十分な車間距離をとり、急ブレーキを減らしましょう」と喚起する。

運行管理者が運転者に実施する帰庫後の主な点呼の内容には、①運行後のチェック確認がある。

これには「運行コンシェルジュ」で時間をかけず正確に行うことが

行う。

評価の結果は、従来の文字と数字だけの無機質なものではなく、「運行コンシェルジュ」の発声で通知し、その声は、女性の声で温かみがあり、運転者が「点呼」による「指導」を想起しやすくする工夫が施されている。

その効果は、運行管理者の負担を和らげ、改善すべきポイントの指摘の正確性を増す。また、運転者の

癖や安全、経済走行に関する改善ポイントを見つけ指導漏れを軽減し、質の高い的確なアドバイスの実現を可能にする。

一方、活用メリットとしては、生産性の向上を図るうえで、「指導時間の短縮による業務の効率化」と「さらに効果的な指導を実現する」という、二重の活用メリットが期待できる。さらに、単一の判定値を組み合わせて分析することで、新しい

コンシェルジュが音声でお伝えます



安全運転・経済運転・輸送品質等様々な観点で評価・診断ポイントを示します

特に改善が必要なポイントは、動画でアドバイスします



NEWS RELEASE

可能だ。②酒気帯びの確認は従来通り。③疾病や疲労状況の確認については、「運行コンシェルジェ」効果により更に正確に従来の運転との違いを把握し、①で省けた時間を運転手の体調確認に時間を費やせる。④その他・次業務指示等については、従来通り。

更に詳しく述べると、運行管理者の業務は点呼以外にも多岐にわたる。

このような状況の中で、最近発生した軽井沢のバス事故、広島トンネル事故等の発生を受け、点呼時の指導とコミュニケーションはさらに重要視される。

なかでも疾病や疲労状況の確認は、今後さらに時間をかけて実施すべきポイントであり、輸送業界が取り組む課題として注目される。

また、「運行コンシェルジェ」により、運行日報、安全日報の分析を効率化することで、点呼の負担軽減が可能になる。

それにより他の点呼内容に時間を割ける点で、点呼全体の正確性を高めることに貢献できる。

今後は「運行コンシェルジェ」の

分析を時系列で捉え、運転者毎の癖を詳しく捉えるデジタコで収集された様々なデータを、組み合わせることで、さらに精度アップを図ることも視野に入れる。

デジタコで収集された様々なデータを、高度なシステムを結集した先進機能「運行コンシェルジェ」は効果的に分析する。

運行管理者でも把握が困難な、運転者一人ひとりの特長を掴んだ上での安全運転指導を支援することを実現した、「運行コンシェルジェ」機能技術を活用することにより、更なる的確な運行指示の実現と運転手とのコミュニケーションを可能にした。

■ 運行管理を革新する 「運行コンシェルジェ」の普及へ

.....

昨今、輸送における安全・環境・経済効率など多岐にわたる課題を背景に、企業自らが自社の製品やサービスの品質や環境負荷を管理する仕組みを作り、定量目標を掲げ成果を公表するケースが増えてきた。

とりわけデジタコは輸送サービスの品質や環境負荷を定量的にモニタリングできる有効なツールとなっている。

また、デジタコの普及が進み、可能であれば輸送事業者からのデータ提供が、統計としての活用も考えられる。

その効果はトラック・バス業界の安全・環境貢献を促進するアイテムとして、これまでの統計では困難とされていた課題に対して、「運行コンシェルジェ」のような分析システムが更に進化、普及することにより貢献への新たな道が広がるものと思う。

■標準価格

「DTS-D1A」 229,000円

「DTS-D1D」 279,000円

(デジタコ+デジタルカメラセット)

■サービス費用

「ITP-WebService V2」

1,980円/月額

「ITP-WebService V2」

(ドラレコ搭載) 2,690円/月額

※デジタコ本体/取付費は別途全て税抜価格。

